

## 留学生受入と大学教育多文化化の課題

ワーナー・メンスキー

東洋アフリカ研究所(SOAS)で多くの留学生を教えてきたなかで、次のような問題が繰り返し浮上した。こうしたことは、おそらく日本の文脈においても関連する問題だと思われる。下記項目における両者の比較は大変興味深いだろう。

- ・留学生を受け入れることのメリット。
- ・ある特定の留学生集団が主流になってきた場合の問題。
- ・ある留学生集団のための特別な措置を設けるかどうか。  
(例えば、食事や祈祷のための設備など)
- ・教育言語としての知識のレベルをどこに設定するか。SOAS では、英語の適正なレベルを実用言語として位置づけた。  
⇒これらの問題は、日本における留学生にとっては異なるのか？
- ・どちらか一つの方式において、言語能力をどのように測るのか。
- ・会話能力と文章能力の違いは？
- ・言語の補講授業が留学生の学習量に与える影響
- ・文章形式の提出物と、マークシート方式の試験では、学生の学習結果に対してどう評価するのか？優遇措置か、特別評価か、同じ水準・レベルという前提に立つのか。
- ・学習や、自己改革、将来へのより良いキャリアの可能性にむけての留学生の意欲をどのように高めていくのか。留学生活は外国での楽しい休暇にすぎないのか、それとも自分自身のために真面目に努力し、国境を越えてさまざまな経験をすることなのか。
- ・入学政策とその後のケア
- ・経済的な関与